

『民法の倫理的考察』の刊行にあたって

赵万一教授は、西南政法大学教授であり、法学院長である。赵教授は、現代の中国を代表する私法学の第一人者である。赵教授は、英国のビジネス法の雑誌の編集委員も務められ、世界的に著名である。赵教授の専門分野は、民法、商法、会社法、証券取引法、比較法と多面にわたるが、最も得意とされる分野が民法である。本書は、民法の基本原則を、意思自治、公平原則、平等原則、信義誠実原則、公序良俗原則等に求め、これらの基本原則から、中国民法の全体像を示し、解説した、赵教授の代表作である。本書は、中国の民法学の最高の水準を持つ書との評価を得て、中国私法で最も権威のある民法哲学文庫から出版されている。本書は、中国で三版を重ね、法学研究書としては異例のベストセラーである。

日本では、中国法に対する関心は高く、中国に子会社あるいは合併会社を有する企業は、中国私法に対するビジネス上の関心を有している。日本の研究者は、中国の私法学の学問研究についても強い関心を寄せている。日本では、中国私法に対するハウツー本、ビジネスガイド的な本は存在するが、中国私法学の学問水準を伝える本はほとんど存在しない。本書は、中国私法学の最高水準の本であり、法律文化社から発刊された本書は、歴史上初めて、中国法学の本格的な学問的著作が日本において発刊されたものの一つである。中国民法に関する信頼できる研究書が、日本の読者にわかりやすい日本語で提供されることは、日本のビジネス界にとっても、歓迎される画期的なこととなるであろう。

本書は上海大学の崔文玉教授が訳され、静岡大学の坂本真樹准教授と大阪市立大学の王晨教授が監訳された。崔文玉教授は日本で学位をとられた高名な新進気鋭の比較法研究者であり、坂本真樹准教授は崔文玉教授の日本留学時代の同僚であり、日本における民事法の新進気鋭の若手研究者である。王晨教授は日本における中国の民事法の第一人者である。本書は、日中の民事法学を代表する最高レベルの頭脳の共同作業であり、これも日本の読者の興味を集めることである。

法律文化社は、これまで、学問的価値のある良書を発掘し、日本の読者に提供する素晴らしい役割を果たしてきた。私は、ここに、法律文化社から出版された、赵万一著『民法の倫理的考察——中国の視点から』を、江湖に強く推薦するものである。

2017年7月10日

大阪市立大学大学院法学研究科教授

高橋 英治